

平成22年度 第2回環境審議会会議録

日時	平成23年3月29日(火) 午後4時から5時30分まで
会場	市長公室
出席者 (欠席者)	審議会委員 出席者 長谷川委員長、二瓶委員、澤田委員、草村委員、千種委員、石塚委員、齊藤委員、羽石委員、関根委員、秦委員、榊原委員、山田委員 欠席者 竹内委員、持田委員  事務局 市川課長、坂間副課長、高瀬係長、岡主査
会議次第	別紙のとおり
配布資料	・「富士見市一般廃棄物処理基本計画第2次計画(案)」に対する意見募集の結果について ・富士見市の環境(平成22年版) ・平成23年度環境施策について
備考	

会議名：平成22年度第2回富士見市環境審議会 会議録

1 開 会

環境課副課長

2 あいさつ

星野信吾市長

——市長退席——

(委員自己紹介)

平成22年10月1日開催の第5期委嘱式及び本年度第1回目の審議会の際に欠席された委員3名が当日初めて出席されたこと等もあり、各自自己紹介をする。

3 議 事（審議会規則に基づき、長谷川委員長が議事進行）

(1) 一般廃棄物処理基本計画のパブリックコメントの結果について

事務局から、別紙配布資料に基づきパブリックコメントの結果について説明。同日午後1時半から開催の「第11回富士見市一般廃棄物処理基本計画市民策定委員会」で計画案に対する市民の意見に対する回答・対応方針、考え方が承認され、今後策定委員長長谷川委員長、澤田アドバイザーと事務局環境課で細部の微調整をしたうえで、市長決裁により最終的に策定する旨の報告をする。

(2) 平成22年度版 富士見市の環境について

(会議資料により事務局から説明)

<質 疑>

委 員—震災後、放射線量が話題や問題になっているが、富士見市ではどのような対応をしているのか。また、今後どのような対応をしていくのか。

事務局—市内での測定はしていない。県の衛生研究所（さいたま市桜区）で測定しており、距離もさほど離れていないことから、数値は参考にしており、いずれにしても長引いては困る問題であり、数値の推移は見守っていきたい。この冊子に数値を掲載することについては、次年度版で検討することとしたい。

委 員—アスベストは非常に危険で、一番注目しなければならない物質と認識している。被害は、30年後に現れるとも言われているが、素人にはどこに使用されているかさえ分かりづらい。市内でアスベストが含有された建物等が、どの程度解体されているなどの情報が

読み取れるようなデータはないのか。

事務局一どこまでのデータがあるかの確証はないが、埼玉県西部環境管理事務所に届出の必要があるものは確認し、冊子に反映できるものは反映することとしたい。

(3) 平成23年度 環境関係予算について

(会議資料・「平成23年度環境施策について」により事務局から説明)

<質疑>

委員一第2次環境基本計画策定事業(新規)の中で市民調査員云々の説明があったが、推進体制はどのように考えているのか。また、動植物基礎調査とあるがどのように考えているのか。希少種や外来種に限定しないで、バランスの取れた調査をお願いしたい。

事務局一調査員は公募の予定をしているが、市民の積極的な参加を期待している。全体での学習会や報告会を織り交ぜながら、調査を進めていきたい。調査に当たっては審議会委員の皆様にもノウハウや知恵を授かりたいので、ご協力を是非ともお願いします。

委員一子供達も交えて動植物の分布状況を調べるなど、誰でも参加出来る調査にしてほしい。ツバメやスズメが少なくなっている実態もあり、5年後、10年後にも結果が活かされるような調査を実施してほしい。また、市内に24ヶ所ある湧き水については、水量調査を実施してみたらどうだろうか。

委員一「減らせ!CO<sub>2</sub>」推進事業(新規)の中の温暖化対策実行計画(区域施策)はどのようなスタンスで取り組んでいくのか。

委員一エコアクション21普及の観点からも、まず市役所が率先して認証・登録をし、市内事業者に推奨することは出来ないものか。

事務局一単独で温暖化対策実行計画(区域施策)だけを策定するのではなく、第2次環境基本計画策定ともリンク・連動させ、セットで進めていくこととしたい。

委員一ムクドリ対策に関連して、根本的な解決策はないものか。とりもちやネットで捕獲し、処理することは出来ないものなのか。

事務局一鳥獣保護法でとりもちや霞網の使用は禁じられているのでできない。飛来数が3,000~5,000羽とも言われており、仮に捕獲出来たとしても限度があり、絶対数はあまり変わらない。長野市では独特の木酢液を開発した業者がいて、一定の成果を上げたようだが、費用も高額で実用性がなく、慣れてしまうと効果がなくなるという話も聞いている。街路樹の強剪定が一番効果的と思われるが、そうし

た場合には、夏場の日陰が無くなってしまったり、アイムふじみ野敷地内のケヤキや周辺の建物に行ってしまう可能性もあり、現段階では駅から少し離れた被害の少ない区域の街路樹に迫いやってしまうのが一番かと考えている。いずれにしても、同様の問題で苦慮している自治体も全国的に多いようである。

(4) その他

特になし

4 閉 会

環境課副課長